

平成25年度 胎内市国語部 活動報告

部長 寺田 武文

1 研究主題 児童・生徒の国語力向上のための指導の在り方をさぐる

2 研究の概要

(1) 第1回部会 事業計画の立案 会場 築地小学校 15:30～ 参加者 18人

(2) 第2回部会 講義及び演習 会場 築地小学校 9:30～ 参加者 15人

① テーマ 「学習指導要領の趣旨の実現を図る説明文の指導」

② 指導者 県立教育センター 長谷川 等 副参事

③ 概略

- ・ 「読むこと」の能力には、幅があり、系統を踏まえた指導が必要である。また、協働型・双方向型の授業を通して、自分の立場から読む力を身に付けさせることを重視したい。
- ・ 指導の目的や重点の置き方が変われば読み方も変わる。評価規準の設定に当たっては、指導書だけでなく、他の資料も参考にするとよい。(⇒国立教育政策研究所)
- ・ 要約は、機械的、形式的に行うのではなく、「誰に」「何を伝えるために」など目的や必要に応じて行うことが大切である。
- ・ 「言語活動の充実に関する指導事例集」を参考にしながら、相手意識、目的意識を明確にした言語活動を仕組む。また、教師が実際に体験してみることがよい教材研究になる。評価する際には、「指導事項」と「言語活動」とを対応させながら、規準を設定するとよい。

(3) 第3回部会 授業研究会 会場 築地中学校 13:45～ 参加者 17人

① 授業者 齊京 正浩 教諭 (築地中学校)

② 単元名 論点をとらえる

(教材名) 「流氷と私たちの暮らし」(1年 光村図書)

③ ねらい

内容を考えながら本論をいくつかの段落に分け、グループによる意見交換やクラス全体での話し合いを通して、自身の考えを修正したり、本論の理解を深めたりすることができる。

④ 協議会の記録

- ・ 段落分けをするためだけでなく、他の教材でも活用できるような「アイテム」を一人一人に身に付けさせることが大切である。
- ・ 本時のねらいに迫るためには、段落の役割に着目させる必要があった。段落の役割に着目した発言があれば、それが基礎・基本を活用している姿と捉えることができるし、中心的な部分と付加的な部分とを読み分けている姿とも捉えることができたはずである。
- ・ 意味段落に分ける目的がより明確になっているとよかった。例えば、「結論を述べるために、作者はどのような例を挙げていますか」といった問い方もあったのではないかな。
- ・ グループ学習で生徒同士が学び合う姿が見られた。聞く姿勢や教室の雰囲気も大変よかった。グループで話し合いをさせる場合は、4人程度の人数が適当である。



3 成果と課題

(1) 成果

8月の研修では、講義と演習を通して、説明的文章の指導について、「読むこと」の能力や目的、意図に応じた読ませ方、評価規準の設定の方法など具体的に学ぶことができた。11月の研修では、公開授業及びグループ協議を通して、説明文を読むために必要な能力や「読み」の基礎となる知識・技能の習得と活用、効果的な課題設定、グループ学習の在り方など認識を深めることができた。

(2) 課題

中学校は二市北蒲中教研にも参加しており、市教研の活動と重なる部分がある。市内小中学校が共に研修するメリットを生かせるよう今後の研修の在り方について検討していく。